



学 校 便 り 琢 磨

令和3年度 第15号 R3.9.22 三豊市立詫間小学校

抗原検査の実施について

抗原検査の実施に関して、本日の朝の時間に、校長から校内放送で全校児童に話した内容を要約して掲載します。

三豊市では、新型コロナウイルスの感染不安を軽減し、子どもたちができるだけ正常な学校生活を過ごせるよう、5月から市民に行っていた抗原検査を全ての小・中学校で受けることができるようにしました。また、この検査（唾液検査・市費負担）を通して、子どもたちの状況を把握し、適切な対処によって、まん延の抑止及び重症化防止を図ることもできると考えているとのことです。もう検査が終わった学校もありますし、これから検査をするという学校もあります。

この検査は、希望する人だけが受けるため、検査を受ける人と受けない人がいます。検査を受ける人にだけ、いつ検査があるのか、どのように検査をするのか、結果はどう知らされるのか等についてお知らせしています。

そこで、お願いがあります。この検査は、皆さんやお家の方の希望で実施します。つまり、受けても受けなくてもかまわないのです。ですから、「ぼくは、今日、受けたよ。」とか、「〇〇さんは、受けてないよ。」など、個人的な情報は決して口に出さないようにしてください。検査を受けない人の中には、既に個人的に検査を受けたからという人もいますし、それぞれの事情や意思によって決めたこともあります。また、検査を受けたくても欠席したり体調が悪かったりした場合は、受けることができません。

検査を受けるとか受けないとかをうわさすることによって、「人それぞれの考えを大切にする」とか「人に嫌な気持ちをさせない」ということを壊してしまうことになります。詫間小学校は、みんな仲間です。詫間小学校の子どもたちには、このよううわさをする人は、一人もいません。校長先生は、間違いないと心から信じています。

新型コロナウイルス感染防止のため、皆さんには我慢ばかりさせてしまっていると本当に申し訳なく思っています。このピンチを、一人ではなくみんなで一緒に乗り越えていきましょう。

移動式多目的収納棚を寄贈いただきました！

9月13日。三豊林材工業様より、移動式の多目的収納棚を28台寄贈いただきました。「学校で何かに役立てていただけたら嬉しいです。」

と、写真にあるとても立派な棚を無料で28台もいただきました。

その上、学校まで運搬してくださり、さらに2階、3階の廊下まで運んでくださいました。本当にありがとうございました。

これから、何に使うかをしっかりと考えて有効活用させていただきます。

右の写真は、三豊林材工業の皆様です。

搬入最後の1台になったところで、記念撮影をさせていただきました。



真鍋校長の独り言 その10

近所に住む外国から働きに来ている方々

私の住んでいる高瀬町にも、外国から日本に仕事に来ている方がけっこういらっしゃいます。私の家の斜め向かいには、中国から来ている若い女性は何人も住んでいます。また、真向かいの3階建てのアパートには、東南アジアから来ている若い男性の方々が多く住んでいます。高瀬町も国際的になったものです。

数年前、私と母が庭仕事をしていますと、若い中国人の女性が、「花、見ていい？」と話しかけてきました。その姿や言葉から、中国から日本に来たばかりの方だと、すぐに分かりました。

「好きなだけ見て行ってな。いつでも見に来たらええよ。」

と、母が答えましたが、彼女に通じたのか通じなかったのかは分かりませんでした。彼女は、しばらく、うちの庭の花や木を「懐（なつ）かしそうに」見ていました。その表情は、とてもさびしそうに見えました。

「あの娘さん。きっと、うちの花や木を見て、中国の家や家族のことを思い出したんやな。」

と、母がつぶやくように話しました。

それから、数か月後、私の家の前で、たまたま彼女を見かけました。服装も髪の色も、そして表情もすっかり明るくなって、仲間たちと楽しそうにおしゃべりをしながら歩いていました。その姿を見て、もう彼女には、うちの庭の花や木は必要ないのだと実感しました。

一方、これも数年前のことですが、真向かいに住んでいる外国人の若者たちは、夜になるとアパートの駐車場でバーベキューみたいなことを始め、けっこう大声で遅くまで話をしていました。お酒もたくさん飲んでいるようで、ゴミ置き場の空き缶入れには、同じ種類のアルコール類の缶が積み上がって、風でカラカラと道に転がっていることもありました。注意しようかと思ったのですが、直接注意して、逆恨みされたら嫌だなと思い、管理人の方に言って注意してもらおうかと思っていた時のことです。駅に向かおうと家を自転車で出た所で、当時高校生だった娘は、転倒し、けがをしまいました。朝の通学・通勤時間帯でしたので、けっこうな人通りはあったようですが、すぐに駆けつけて助けてくださったのは、真向かいの若者たちだけだったそうです。こわれた自転車まで、彼らは直してくれたそうです。「あの人たち、いい人やで。」と言う娘の言葉で、苦情を言うのはやめました。不思議なことに、それからしばらくすると、夜のバーベキューはなくなりました。大きな声も、ほとんど聞こえなくなりました。誰かが注意したのか、自粛したのかは分かりませんが……。本当に、それ以来、住人が次々に変わっても大きな声はしなくなりました。

あれから何年も経った今日の朝（敬老の日）。家の車庫の前で動かなくなってしまった車（50年以上も前の車：実は、私は旧車オーナーです。）を手で押していたのですが、一人の力では、ゆるやかな坂になっている駐車場の中に入れられなくて困っていました。それを見た前のアパートに住んでいる若者（最近、ここに住み始めた外国人の若者）が、走ってきて、身振り手振りで何かを伝えようとしています。間違いなく「車を押すのを手伝いますよ。」と伝えているのです。私が「お願いします。」と頭を下げると、何人もの人が集まって、軽々と車を車庫に入れてくれたのです。その中の一人に、私は見覚えがありました。数日前、私が帰宅した時に、私に向かって話しかけてきた若者でした。うちの庭の道路の脇にある「すだち」のなっている木を指さして「これ、少しいいですか？」と話しかけてきた若者でした。「どうぞ。」と言うと、彼は、遠慮がちに何個かの実をもぎ取って、丁寧におじきをしてアパートに帰って行ったのです。

こんなことがあって、数年前のすっかり忘れていた出来事を思い出してしまいました。そして、何だか、とてもはずかしい気持ちになってしまいました。

